

第5学年 国語科学習指導案

研究主題

どの子も自信をもって書くことができる指導法の工夫
～モデル文や文集「練馬の子ら」を活用して～

めざす児童像

- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考え、自分の考えが伝わるように書くことのできる子
- 日常生活や他教科の中でも、文種ごとの書き方が分かり、積極的に書こうとする子
- 書いたことを発表し合い、友達からの助言を受けて、表現の効果などについて更に工夫したり推敲したりできる子

1. 単元名 人物の生き方に学び、自分の考えを深め、表現しよう

2. 教材名 千年の釘にいどむ

3. 単元の目標

- 人物の生き方や考え方から、自分の考えを深め、感想文に書こうとする。【国語への関心・意欲・態度】
- ◎読みながら考えたことや、友達と考えを交流して思ったことを基に、モデル文や、「感想文虎の巻」を参考に自分の感想を効果的に書くことができる。【書くこと】
- 伝記を読み、自分の経験や考え方と照らし合わせて、その人物や出来事、筆者の物の見方・考え方について感想をもち、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【読むこと】
- 書いたものを読み合い、感想を交換することによってより考えを深め、表現を高めることができる。【言語事項】

4. 評価規準

| | |
|--------------|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・人物の生き方や考え方、行動に目を向け、自分たちの生活と重ねるなどして得た感想を書こうとしている。 |
| 書くこと | ・モデル文をもとに、効果的な感想文の書き方を学び、工夫しながら書いている。 ・友達と感想を交流し合い、書き方の良さについて肯定的に伝え合っている。 |
| 読むこと | ・感想をもつための視点を理解しながら読もうとしている。 ・自分の経験や考え方と照らし合わせて、描かれている人物や出来事・筆者の物の見方・考え方について感想をもっている。 |
| 言語事項 | ・感想文としての効果的な表現や段落構成に気を付けて書いている。 |

5. 単元について

(1) 児童の実態 意識調査

| 設問 | 回答項目 | 平成 24 年 4 月 | 平成 25 年 2 月 | 平成 25 年 7 月 |
|---------------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 国語の勉強は好きですか。 | 好き | 19人 | 26人 | 24人 |
| | まあまあ好き | 41人 | 50人 | 46人 |
| | あまり好きではない | 25人 | 13人 | 18人 |
| 本を読むことは好きですか。 | 好き | 49人 | 55人 | 62人 |
| | まあまあ好き | 30人 | 34人 | 19人 |
| | あまり好きではない | 6人 | 0人 | 12人 |
| 書くことは好きですか。 | 好き | 33人 | 43人 | 27人 |
| | まあまあ好き | 33人 | 36人 | 39人 |
| | あまり好きではない | 19人 | 10人 | 22人 |

◆考察

アンケート結果を見ると、今年度になって「書く」ことが好き（まあまあ好き）と答えている児童が減少してしまいました。その理由について尋ねると、「国語の学習以外にも(委員会や他教科で)書くことがぐんと増えてきて、書くことに追われてしまうことが増えたから。」「早く字を写さないといけないから」など、書く量が急に増えたことによる、焦ってしまう気持ちがあり、あまり好きではなくなっているようであった。また、友達と自分の違いが気になる年頃で、自分の書く文字の汚さが気になったり、習った漢字がすぐに思い出せずに平仮名で書いてしまうことが気になったりすることから、書くことが苦手と感じている児童もいる。一方、好きな理由の中に、「自分の意見や考えを書くことで人に伝えることができるから。」とか、「書いて残せることが楽しい。」「苦手だけど好き。」という児童も多くなってきている。しかし、内容的にも何を書いていいかわからない(特に感想文)という児童もいる。以上のことから、児童にとって書き方が分かるようなモデル文を提示し、すぐに書ける状況を作ることが更に必要だと考えた。

また、読書を好む児童が増え、場面を豊かなイメージで想像することができるようになっていたり、そのことを楽しんだりする子が増えてきている。また、読書を通して語彙力が向上している様子もうかがわれる。

◆学年の児童の実態

まじめに学習する児童が多いが、ある程度できていても苦手意識をもつ子の割合が多い。実際に書けるようになっていても、まだちゃんとは書けていないという感想が返ってくる。失敗を恐れるところがあるため、同じパターンで書けばいいということが分かると安心して書くようになる。このことから、モデル文を使って学習することで書き方が分かり、すぐに書く活動に取り組み、書きあげることが早くなってきた。現在は、10分間作文の時間を使って書き慣れることに取り組んでいる。

(2) 単元設定の理由

今年度「人物の生き方に学ぼう」というテーマで国語の学習を行っている。6月の研究授業では、「百年後のふるさとを守る」の教材を使い、平行読書で伝記を読むことを通して昔の人の言葉や生き方に着目させ、自分の生き方や考え方について改めて考えさせながら、意見文の書き方を学習した。

今回の国語の学習においても、自分の仕事に誇りをもち、自ら研究を重ね、納得するまで釘を作り続けた白鷹さんの生き方や考え方を読み取る中で感じたことを、感想文として書くという課題を設定し、感想文の書き方を学ばせることにした。

(3) 学習材について

「あめ玉」では、登場する侍や母親について学ぶとともに、作者である新美南吉の考えについて話し合い、「のどがかわいた」では同年齢の登場人物に寄り添いながら、一人一人のもつ個性や生き方について考えてきた。「百年後のふるさとを守る」では、儀兵衛の生き方について学んだ後、自分の生活に結びつけて意見文を書く学習を行った。「大造じいさんとガン」では、言語活動を朗読劇とし、優れた表現に読み入りながら大造じいさんの心情の変化や生き方・考え方について学習してきた。

「千年の釘にいどむ」も、白鷹さんの考えに心動かされ、その生き方に学ぶものが多く、感想をもちやすい学習材である。この作品を通してもらった感想を友達と交流し、自分の考えを深め、自分の生き方を見つめるきっかけとしたい。

そのために、教育出版の5年生の教科書に載っている、この作品と同じように人物を紹介したノンフィクション、「みすずさがしの旅」を読んだ感想文をモデル文として、書き方を学ばせることにした。

6. 主題に迫るための指導の工夫

(1) 書くことにおける「内容」と「方法」の指導の区別を明確にする工夫

①単元構成の工夫

本単元では、単元構成を、導入の段階で「感想文集にする」という言語活動を意識させて、1次では、モデル文を参考に感想をもつための読解の仕方（叙述に即して白鷹さんの考え方や生き方について読み取り、それに対するそれぞれの感想をもつ）を学習し、2次の書く活動では白鷹さんに対する感想を自分の生活に引き寄せて考えながら、感想文の書き方を学習するように構成した。また、要約の仕方については、今までの学習の中で随時行うようにしてきた。

②モデル文の提示

「千年の釘にいどむ」は、現在も古代の釘作りをする白鷹さんが、何の参考文献もない中から自分で試行錯誤し、千年先も役に立つ釘を作り出したエピソードを内藤誠吾さんが紹介した文章である。そこで、同じように、金子みすずの詩に感動し、みすずの残した作品を追い求めた矢崎節夫さんの「みすずさがしの旅」（教育出版5年）を読んだ感想文をモデル文とすることにした。

③共通教材での演習

感想文を書く（感想をもつ）ためには、その本の話に深くかかわりながら読むことがポイントになってくる。そこで、「千年の釘にいどむ」の読解の時から、表現に着目して書かれていることを正確に読むために、本物の釘を見せたり白鷹さんのビデオを見せたりするなど、その他の情報を与えたり、自分の体験と関連付けて読ませたりすることが必要になってくる。共通教材で感想を表現する段階では、モデル文で提示した基本的な文形を参考にして読解でもつことができた感想を文章化する。今回は白鷹さんに視点を当て、その行動や生き方に対する感想を、モデル文の構成を使って一斉指導で書く。その際の内容は読解の時間に学んだものを使用する。また、表現方法については「感想文虎の巻」を用意し、内容に応じた感想文の書き方ができるようにした。

(2) 自信をもって書くための単元構成の工夫

「自信をもって書く」ためには、何をどのように書けばよいのかが分かることが大切である。人物に視点を当てた感想文の書き方をマスターすることによって、物語の登場人物に視点を当てて感想を書いたり、作者の考え方に視点を当てて感想を書いたりする力がつくと考ええる。

(3) 共通教材・モデル文の工夫

感想文の構成を下記のようにした。

- ①その人の生き方の中で、感動したこと。
- ②事実（記述されていたこと）＜100字程度に要約＞
- ③自分の生活を振り返ってみて
 - 【仮定】もしも私だったら
 - 【疑問】なぜ白鷹さんは…
 - 【共感】ぼくも白鷹さんのように…
 - 【願い】私も、将来…したい。
- ④自分の考えの変容
 - 「私は、白鷹さんから…を学びました。」「私はこれまでに～ただろうか。」「私も、白鷹さんの生き方に学び、～ような人になりたい。」

それまでの自分の生活の仕方や考え方を思い起こさせることによって、今回、この話を読んで考え方が変わったことや成長したことを実感できるようにしたい。また、使わせたい表現については、『感想文虎の巻』の中で紹介し、その中から言葉を選ぶことによってどの子どもも自信をもって自分の意見を明確に書き表すことができるようにした。

(4) ワークシートの工夫

- ・1 次の読み取りでは、活動の目的である感想文に結びつく「白鷹さんの行動や考えに対する自分の思い」を中心に、記述を根拠にして、バタフライマップに記録するようにした。
- ・2 次の書くことでは、①～④の構成ごとに、その段落の初めに色別のシールを貼りモデル文との対応がわかりやすいようにした。

『モデル文』『感想文虎の巻』は別刷りをし、それらとワークシートを見ながら原稿用紙に書くようにした。

7. 指導計画（国語8時間 道徳・学活 各1時間）＜読むこと2時間・書くこと6時間＞

| 次 | 時 | 学習活動 | ☆手だて ○指導上の留意点 ◆評価【方法】 | 道徳・学活との関連 |
|----|-----------------|---|---|---|
| 道徳 | 第1時 | | | 道徳『心広げて』の中にある「先人の生き方に学ぶ」の部分を利用し様々な人物について知る。 |
| 1次 | 第1時 読 | ○今まで読んだ本から生き方を考えたり変えたりしてくれる部分があったことを思い出す。 | ○以前に学習した「百年後のふるさとを守る」や、自分たちが伝記を読んだ経験から、人物の行き方について考えたことを話し合う。 | |
| | 第2時 (2組本時) | ○「みすゞさがしの旅」を読む。 ○モデル文を読み、感想文の構成や使いたい表現を学習する。 | ☆みすゞのすばらしさを追求した矢崎さんの生き方に視点を当てて読むように声かけする。 ○自分の生き方と比べて考える部分に着目してモデル文を読ませる。 ◆モデル文をもとに、効果的な感想文の書き方を学び、工夫しながら書こうとしている。【観察・ワークシート】 | |
| | | 人物の生き方に学んだことを読書感想文にしよう | | |
| | | モデル文での学習 | | |
| | 第3時 | ○題名読み・範読を聞き、学習材のイメージをつかむ。 ○初発の感想を書き、交流する。 | ☆教科書にある写真をカバーするような情報（DVDや実物の釘）を与え、職人としての白鷹さんの像をイメージしやすくする。 ☆感想の観点を「白鷹さんについて」とすることによって、学習課題を立てやすくする。 | 以下 個別教材のための平行読書を行う。 |
| | 第4時 | ○バタフライマップを使って感想文のメモをとる。 | ○心を動かされたことを次の観点から考えさせる。（人柄・行動・考え方） ☆感想文虎の巻を使用する。 ◆本の中の登場人物の、生き方や考え方、行動に目を向け、自分たちの生活と重ねるなどして得た感想を書こうとしている。【観察】 | |

共通教材での学習

第5時書
(3組本時)

- モデル文を参考に、感想文を書く。
- ・第1段落・第2段落を書く。

- 段落ごとに、1次の読解の時に読み取りながら書いたバタフライマップに書いたことを利用しながら書かせる。
- ☆感想文虎の巻を使用しながら書き方を確認する。
- 全体の段落構成を分かりやすくするために、段落ごとに色別のシールを利用させる。
- ◆モデル文を基に、効果的な感想文の書き方を学び、工夫しながら書いている。【ワークシート】
- 同じ文章を読んでも、感想の持ち方がいろいろあることに気づき、友達の書き方の良いところを見付けながら読ませる。
- 文の内容や、字の丁寧さに偏らず、文の構成が明確になっているかにも着目して読み合うようにする。
- ◆友達と感想を交流し合い、書き方の良さについて肯定的に伝え合っている。【観察・発表】
- 早く書き終わった児童同士で作品を読み合い、校正させる。

第6時書

- モデル文を参考に、感想文を書く。
- ・第3段落・第4段落を書く。

個別教材での学習

第7時書
(1組本時)

- 自分が読み進めてきた本の感想文を書く。
- ・生き方から学んだことを確認する。
- ・モデル文・共通教材・虎の巻を使って感想文の構成を考える。

- 共通教材で学習したことを使って、自分らしい感想文を書かせる。
- ☆モデル文やそこで学んだことも見ながら書けるように掲示する。
- 共通教材で使った「感想文虎の巻」も活用させる。
- 共通教材で書いた文を読み、書くことを振り返って確認させる。
- ☆バタフライマップを使って書くようにする。
- ◆モデル文を基に、効果的な感想文の書き方を学び、工夫しながら書こうとしている。(観察・ワークシート)

第8時書

- 友達と交流し、校正する。

3次

学級活動

- ・作成した感想文は、『私たちの生き方考える』という文集にして、保護者の方にも読んで感想を書いてもらおう。
- ・学年で読み合う。

8. 本時の学習 (2/8)

5年2組 指導者 佐久間 亮司

(1) 目標

◎モデル文を読み、感想文の構成や言葉の使われ方を理解することができる。

(2) 本時の展開

| 過程 | 学習活動 | ☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】 |
|-----|---|---|
| 導入 | 1. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> モデル文を読んで、感想文の書き方を学ぼう。 </div> | |
| 展開 | 2. モデル文を読み、全体の構成を確認する。 ・モデル文を構成ごとに色分けする。 3. 第一段落に書かれている内容をつかむ。 ・その人の生き方の中で感動したこと 4. 第二段落に書かれている内容を把握する。 ・要約 5. 第三段落に書かれている内容をつかむ。 ・自分の生活を振り返ってみて 6. 第四段落に書かれている内容をつかむ。 ・自分の考えの変容 | ☆モデル文は簡潔にし、全体の構成などがすぐに分かるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 段落構成 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①その人の生き方の中で、感動したこと。(赤) ②事実(記述されていたこと)(青) ③自分の生活を振り返ってみて(緑) ④自分の考えの変容(オレンジ) </div> ○モデル文の段落構成と、ワークシートに自分が書いた内容とを照らし合わせ、どの色でかこんだ部分が何段落になるかを確認する。 ○第一段落での言い回しに線を引く。(虎の巻参照) ○第二段落があらすじであることに気付かせる。 ○第三段落が自分に引き付けて考えたことを気付けさせ、今後も使える「使いたい表現」を確認させる。 ○第四段落がまとめであることに気付かせる。 ○1段落の内容を受けて書かれていることに気付かせる。 ◆モデル文をもとに、効果的な感想文の書き方を学び、工夫しながら書こうとしている。【観察・ワークシート】 |
| まとめ | 7. 次時で書くことの見通しをもつ。 | ○自分で読み取ったことをもとに感想文を書くことを伝える。 |

8. 本時の学習 (5/8)

5年3組 指導者 野島 泰一

(1) 目標

◎モデル文を参考に白鷹さんの生き方に対する感想文を書くことができる。

(2) 本時の展開

| 過程 | 学習活動 | ☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】 |
|-----|---|--|
| 導入 | 1. 前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・モデル文を読み、感想文の特徴を振り返る。 ・感想文の構成を確認する。 ・モデル文の構成に合わせ、段落ごとにシールを使って書くようにする。 | ○学習しながら書きためたワークシート(自分の考え)を振り返り、今日の学習の見通しを立てさせる。 ☆『感想文虎の巻』を渡し、第一段落のヒント(書き出しの工夫など)を使って書けるようにする。 ○モデル文から、共通に使える文を確認する。 ○効果的に表現するために必要な「使いたい表現」を確認する。 |
| 展開 | 2. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> モデル文を使って、白鷹さんの生き方に対する感想文を書こう。 </div> 3. 青のシールを貼り、1段落を書く。 4. 第一段落を書き終わった児童から交流を始め、校正をしたり、書き足したりする。 5. 第二段落を書く。 ・読解の授業の中で、ワークシートの赤い線で囲んだ部分を声に出して読みながら確認する。 6. 赤のシールを貼り、第二段落を書く。 7. 第二段落が書き終わった子から交流を始め、校正をしたり、書き足したりする。 | ○第二段落の構成を確認させる。 ◆モデル文をもとに、効果的な感想文の書き方を学び、工夫しながら書いている。 【ワークシート】 |
| まとめ | 8. 自分の書いた文を読み返し、次時で第3・第4段落を書く事の見通しをもつ。 | ○次時は、第三段落、第四段落を書く事を知らせる。 |

8. 本時の学習 (7/8)

5年1組 指導者 高見 博子

(1) 目標

◎モデル文を参考に共通教材で学習したことを使って、自分が選んで読んだ本の感想を書くことができる。

(2) 本時の展開

| 過程 | 学習活動 | ☆手だて ○指導の留意点 ◆評価【方法】 |
|-----|--|---|
| 導入 | 1. 前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。 2. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習して身に付けた力を使って、○○さんの生き方に対する感想文を書こう。 </div> | ○前時自分が書いた、バタフライマップを見直し、今日の課題を確認させる。 |
| 展開 | 3. 自分が選んだ本から一番に学んだこと・感動したことは何だったか、確かめる。 4. バタフライマップの羽ごとに、自分が書こうとする内容をメモする。 5. 自分の生活につなげる部分について再確認する。 6. 今までの書き方を参考に、感想文の構成を考える。 (7. 「虎の巻」の言葉集を参考にしながら、書き出しの文を書く。) | ○自分がこれから書こうとするものの中心を再確認させる。 ☆モデル文・共通教材・虎の巻を使って、自分が書こうとするものの内容を簡潔にメモする。 ○それぞれの読書の時間に書いたメモも参考にさせる。 ○自分が一番伝えたいことがはっきり伝わるためには、どんな語句を使ったらいいかを見つけて書く。 ◆モデル文をもとに、効果的な感想文の書き方を学び、工夫しながら書こうとしている。【観察・ワークシート】 |
| まとめ | 8. 自分の書いた文を読み返し、次時で書くことの見通しをもつ。 | ○次回は、感想文全体を仕上げ、文集を作ることを知らせる。 |